

## 第 5 回 通 常 総 会 記 録

日 時 昭和49年6月8日 午後1時

場 所 農 協 会 館 5 階 ホール

明るく健康な農村を築くことを目的に発足した当研究会も創立以来5カ年の歳月を経過いたしました。熱心なる会員の方々及び関係諸機関のご協力によりまして着々と研究業績をあげさせていたゞいております。ここに第5回通常総会を迎える運びと相成りました。本年度の研究業績は会誌第5巻で発表いたします。

本総会は112人の出席と委任状73通で定刻に開催され議案審議等とどこおりなく進められ、金沢大学法文学部の二宮教授の特別講演を拝聴し無事総会を終了いたしました。

以下総会の議事の概要と提出資料を掲載し参考に供します。

### 議 事 の 概 要

・会 員 総 数 194名 うち出席者 112名、委任状73名

・会 長 挨拶 豊 田 文 一

・議 長 選 任 富山市民病院 長谷田祐作氏議長となる

・議事録署名者及び書記指名

議事録署名者 滑川市 一 柳 兵 藏 滑川市 柿 沢 ケイ子

書 記 矢 部 貴 勇 玉 井 真

・議 事

- 第1号議案 昭和48年度事業報告書、財産目録、収支決算報告承認について  
事業の概要と主なる行事の報告に併せ財産目録及び収支決算について報告承認を得た
- 第2号議案 昭和49年度事業計画及び収支予算案承認について  
昭和49年度の事業計画と収支計画案を説明し承認を得た
- 第3号議案 役員の一部変更について  
理事、監事のうち下記のとおり変更が決定された

	(旧)	(理 由)	(後 任 者)
県農産普及課長	理事 飯 田 久 行	転 任	武 脇 長 良
県衛生研究所長	" 久保田 憲太郎	"	未定 (次期所長 決定次第就任)
県農協青年部長	" 荒 川 邦 彦	農協青年部の任期満了により交替	吉 田 勉
県農村医学研究所	" 千 田 逸 郎	辞 任	—
県厚生農協連会長	" 石 黒 正 仁	死 亡	笹 島 太 一
県 医 師 会	" —	医師会学術担当理事として	吉 崎 亨
高岡市役所農林部長	監事 水 巻 清 三	転 任	能 町 為次郎

### 特 別 講 演

金沢大学法文学部教授 二 宮 哲 雄 氏

演 題 (現代日本農村と農村社会学) 講演録1頁~8頁に掲載

# 事業報告書

昭和48年4月1日～昭和49年3月31日

昭和48年度を終了するにあたり、ここに事業の概況ならびに決算関係諸表をご報告申し上げます。

本年度は前年度に引き続き本会に課せられた使命ののっとり、本県における農山村の実態を医学的に調査研究し、健康な農山村を築き上げるための努力を続けてまいりました。特に本年度は、47年度に行った貧血調査のうち血色素低値者の多かった地区10地区を選び2回にわたり延 940人の貧血調査とさらに 149人の栄養調査を実施いたしました。なお、当初計画しておりました調査研究の各事項についても、富山県農村医学研究会誌第5巻にそれぞれの業績を掲載することができました。

会員各位のご理解とご協力によりまして第5年度も順調にすすめさせていただきましたことを深く感謝申し上げます。

## 主なる事業

年月日	主たる行事		
48. 4. 23	第1回役員会	於 農協会館5階会議室	通常総会の開催と附議事項
5. 1	第3回編集委員会	於 中央会々議室・厚生連会議室	掲載順及びページ数について
5. 7	第1回専門委員会	於 厚生連会議室	調査地区の選定について 10地区の 対照のとり方 検査方法、項目及び日程について 栄養調査地区の選定 3地区 結果報告、個人宛通知決定
48. 6. 1	第2回役員会	於 農協会館5階小会議室	通常総会の件
48. 6. 2	調査説明会	於 農協会館5階小会議室	生活指導員及び婦人部
48. 6. 5	第2回専門委員会	於 厚生連会議室	日程報告及び検査費用について
48. 6. 9	第4回通常総会	於 農協会館5階ホール 金沢大学医学部教授 岡田 晃 博士	特別講演「健康管理のすすめ方」
48.6.19～28	第1回貧血調査	518名（非農家52名）	栄養調査 3地区 149名
48. 9. 8	第3回役員会	於 農協会館5階小会議室	第22回日本農村医学会及びアジア農村医学会出席者について 貧血調査中間報告
48. 12. 7	第4回役員会	於 農協会館5階小会議室	雑誌の編集について 栄養調査について 農民の健康会議の富山開催について
49. 1. 24	第3回専門委員会	於 厚生連会議室	第2年次第2回貧血調査について 栄養調査報告
49.2.4～3.5	第2回貧血調査	県内10地区	422名（非農家46名）
49. 3. 11	編集委員会	於 厚生連会議室	掲載順及びページ数について

## 財産目録

昭和49年3月31日

内 訳	金 額	
預 金	61,694	
計	61,694	

# 昭和49年度 事業計画

昭和49年4月1日～昭和50年3月31日

## 1. 職業性疾患の調査研究

潜在性疾病、農夫症、ビニールハウス病等の調査研究

農村婦人の貧血に関する調査研究

農村婦人の健康実態調査に関する研究

## 2. 産業災害の調査研究

農業用機械による災害及び車両等による災害の調査研究

## 3. 健康管理についての調査研究

農民の健康状態の把握とそれに応じた保健指導、農山村民の健康管理の調査研究

## 4. 農村特有の疾患の調査研究

伝染病、風土病等多発性疾患の疫学についての調査研究

## 5. 農村における社会医学的問題の調査研究

出かせぎ等による経済的、社会的問題の調査研究

## 6. 環境汚染と農村における健康障害についての調査研究

大気汚染、水質汚染等についての調査研究

## 7. その他目的達成に必要な事項

項目	備考

## 昭和48年度 収 支 決 算 書

自 昭和48年4月1日 至 昭和49年3月31日

項	目	予 算 額	実 績	差 引 増 減
会 費 収 入		60,000	47,700	△ 12,300
	会 費	60,000	47,700	△ 12,300
援 助 収 入		3,600,000	3,350,000	△ 250,000
	助 成 金	1,800,000	1,800,000	0
	特 別 負 担 金	1,800,000	1,550,000	△ 250,000
雑 収 入		23,081	19,306	△ 3,775
	雑 収 入	23,081	19,306	△ 3,775
前 期 繰 越		66,919	66,919	0
収 入 計		3,750,000	3,483,925	△ 266,075
会 議 費		390,000	311,830	△ 78,170
	總 会 費	100,000	117,080	17,080
	役 員 会 費	120,000	143,000	23,000
	専 門 委 員 会 費	100,000	41,750	△ 58,250
	編 集 委 員 会 費	70,000	10,000	△ 60,000
事 業 費		2,700,000	2,600,091	△ 99,909
	研 究 調 査 費	2,000,000	1,977,840	△ 22,160
	研 究 集 会 費	100,000	0	△ 100,000
	雑 志 発 行 費	500,000	591,100	91,100
	通 信 費	50,000	21,651	△ 28,349
	消 耗 品 費	30,000	9,500	△ 20,500
	備 品 ・ 什 器	20,000	0	△ 20,000
旅 費 交 通 費		300,000	166,750	△ 133,250
	旅 費 交 通 費	300,000	166,750	△ 133,250
事 務 費		340,000	340,000	0
	事 務 費	340,000	340,000	0
雑 費		10,000	3,560	△ 6,440
	雑 費	10,000	3,560	△ 6,440
子 備 費		10,000	0	△ 10,000
	子 備 費	10,000	0	△ 10,000
次 期 繰 越			61,694	61,694
費 用 計		3,750,000	3,483,925	△ 266,075
差 引		0	0	0

## 昭和49年度 収 支 予 算 書

自 昭和49年 4 月 1 日 ～ 至 昭和50年 3 月 31 日

収 入 の 部			
項	目	予 算 額	内 訳
会 費 収 入		60,000	
	会 費	60,000	会費 200人×300円
援 助 収 入		3,600,000	
	助 成 金	1,800,000	県費助成金
	特 別 負 担 金	1,800,000	農協各連負担金
雑 収 入		38,306	
	雑 収 入	38,306	預金利息その他
前 期 繰 越		61,694	
合 計		3,760,000	

支 出 の 部			
項	目	予 算 額	内 訳
会 議 費		390,000	
	総 会 費	100,000	会場借上料、資料代など
	役 員 会 費	120,000	年12回会場借上料
	専 門 委 員 会 費	100,000	委員会開催費用
	編 集 委 員 会 費	70,000	雑誌編集委員会費用
事 業 費		2,770,000	
	研 究 調 査 費	2,000,000	研究調査費、学会参加旅費
	研 究 集 会 費	100,000	学会々場借上料その他会場設備費
			資料及び案内状印刷代、講師謝礼 集会雑費
	雑 誌 発 行 費	600,000	年 1 回 600部
	通 信 費	30,000	
	消 耗 備 品 費	30,000	事務用消耗品、その他
	備 品 ・ 什 器	10,000	
旅 費 交 通 費		200,000	
	旅 費 交 通 費	200,000	役員会旅費、専門委員会旅費
事 務 費		380,000	
	事 務 費	380,000	パート雇上料、印刷代、その他
雑 費		10,000	
	雑 費	10,000	
子 備 費		10,000	
	子 備 費	10,000	
合 計		3,760,000	

## 望まれる調査研究事項

1. 農夫症、ビニールハウス病等の職業性疾患について
2. 農業用機械、自動車等による産業災害に関する調査研究
3. 労働時間、休憩時間、作業強度、作業姿勢等の健康におよぼす影響についての調査研究
4. 農民の年齢、性その他の身体的諸条件に応じた作業法（たとえば婦人労働、老人労働など）についての調査研究
5. 農民の使用する毒物、劇物、農薬等に関する中毒学的試験および検査ならびに安全使用法、健康におよぼす影響等必要な調査研究
6. 人畜共通伝染病についての調査研究
7. 農民の健康状態の把握とそれに応じた保健指導、医療確保（医療施設の整備、医師等の医療従事者の確保）など、農山村民の健康管理についての調査研究
8. 衣生活および住生活、活動と休養、体格と機能の生理衛生ならびに健康増進方法についての調査研究
9. 農民の食生活の実態および米、塩等、農民が多量に摂取する食品の栄養学的研究
10. 農山村における水道、下水道、汚物処理、そ族こん虫等の環境衛生に関する調査研究ならびに住宅その他地域計画の保健衛生に関する分野の調査研究
11. 農村保健に関する衛生統計、社会統計等の諸統計や各種データー収集、解析および資料の編さん
12. 伝染病、風土病および農村特有の多発性疾患の疫学について
13. 農村における社会医学的問題の調査研究
14. 農村における人口動態、人口移動、人口年齢構造など人口現象について
15. 環境汚染と農村における健康障害についての調査研究
16. その他農山村保健の推進のため必要な調査研究

## 投 稿 規 定

**募 集 原 稿** 農村医学の分野における独創的な研究および会員のたよりとします。

**投 稿 の 資 格** 投稿者は原則として富山県農村医学研究会会員とします。

**原 稿 の 送 り 先** 富山県農村医学研究会事務局宛（富山市新総曲輪 2 番 21 号 富山県厚生連内）

投稿原稿の掲載選択順位は編集委員にこ一任下さい。

### 論文原稿の形式

1. 本文は本会規定の原稿用紙に、口語体、平かな、新かなづかいで、できるだけ簡潔に横書して下さい。
2. 外人名、地名、その他の固有名詞、特別な化合物名などは、できるだけ原綴のまま（Pasteur, Prostaglandin 等）とし、動植物名は日本名の次に学名（ローマ字 *Mocacus rhesus*, 山椒藻 *Salvinabatah* 等）を記入する。計量にかんするものはメートル法に準拠し、次のような略号を用いる。メートル m、センチメートル cm、グラム g、キログラム kg 等。
3. コシマ（, ）ピリオド（. ）コロソ（:）ゴシックの使用等に気をつけて下さい。
4. 図書は、そのまま製版できるように上質ケント紙または方眼紙に墨で、ていねいに書いて下さい。（図表は、特殊なものを除いては、出来あがり左右 6.5cm に製版しますから、その 2 倍か 3 倍に書いて下さい。）図書の文字は、こちらで記入しますから、鉛筆で書いて下さい。
5. 写真は出来るだけ鮮明なものをお送り下さい。
6. 本文に挿入する図表、写真については、挿入場所を原稿の欄外に明記（朱記）して下さい。

**無 料 掲 載** 原稿用紙 20 枚（刷上がり 5 頁）までとします。ただし挿入附図、附表を含みます。

**有 料 掲 載** 超過頁の印刷代、附図、附表の製版代の実費は投稿者の負担とします。ただし刷上がり 15 頁を限度とし長篇の論文を 5 頁ずつ分割掲載することは認められません。

- 文 献**
1. 雑誌の場合 著者名、標題名、雑誌名（雑誌指定の略号）、巻数（号数）、頁一頁、発行年月（昭 40. 5 のごとく）
  2. 単行本の場合 著者名：標題名、発行所、発行地、発行年月（必要ならば引用の個所の頁を最後に）

**別 刷** 別刷の部数や体裁などについてはある程度まで、実費をもってご希望に応じます。ただし別刷 30 部までは無料で投稿者に進呈、30 部以上は実費をご負担願います。

## 編 集 後 記

富山県農村医学研究会誌といういかにもいかめしい雑誌名ではあるが、実際には研究といったぐいのものより、会員だよりのごとく気楽な随想文までも含まれている。これはただ編集委員のみの責任ではなく、農村医学というテーマにとり組むことのむずかしさを意味するものであろう。

一方、農村医学が豊田先生の云われるようにひとつの転換期にたたされているとすれば、この私共の富山県の場合には従来の農民の医学より農村を基盤としている富山県民全体の医学へと移りつつあるのでないかと思う。

富山県農村医学研究会を中心として少なくともこの6年間、県全域にわたる会員各位の努力により、その住民の健康管理にささやかではあるが成果をあげて来たことは喜ばしいことである。個人の健康が社会全体の健康に連なるものであるから、今後も会員各位が気楽に県民の健康医学というテーマにあらゆる努力と施策を傾けてほしいものである。

北 川 鉄 人

編 集 委 員 越山 健二、長谷田祐作、北川 鉄人

---

富山県農村医学研究会誌 第6巻 昭和50年3月25日印刷・昭和50年3月31日発行  
高岡市永楽町5番10号・富山県厚生連内 電 話 高岡 (0766) 21-3930  
編集、発行所 富山県農村医学研究会 事務局長 岩 井 久 作  
印刷所 菅野印刷興業株式会社 富山県黒部市三日市 電話(0765)54-0112

---